

果樹産地振興に向けた課題解決支援

ねらい

県下のかんきつ産地は、中山間地の傾斜地や段々畑で栽培され、夏場に作業が短期間に集中することから、省力化園地の整備を進めるとともに、省力化体系による軽労働化を図ります。

すだちは、生産者の高齢化による労力不足で貯蔵作業が負担になっていることから、簡易な中期貯蔵技術を検討します。また、長期貯蔵が品薄になる2月から3月期の出荷に向けた晩生すだちの産地導入を支援します。

なしは、産地維持のためジョイント栽培技術の普及を目指します。

活動地域・対象

地域：徳島市、神山町、阿南市、勝浦町、佐那河内村、鳴門市、松茂町

対象：かんきつ農家、すだち農家、なし農家

普及活動の目標

【かんきつ】省力体系モデル農家 3戸

【すだち】新たな貯蔵技術導入モデル農家 6戸、晩生すだち導入モデル農家 30戸

【なし】ジョイント技術定着モデル農家 5戸

目標に向けた活動概要

1 かんきつ栽培の省力化体系による軽労働化の推進

すだちの省力体系モデル園として、成園までの雑草管理、かん水時間短縮の実証を行いました。また、省力機械の導入実態を調査しました。

- ・段ボールマルチを利用した省力的な抑草管理
- ・株元にチューブを設置した簡易かん水システム



実証ほの設置

2 すだちの簡易な中期貯蔵技術の検討と晩生すだちの導入支援

(1) すだちの簡易な中期貯蔵技術の検討

従来の作業と比べて簡易な中期貯蔵技術の開発を目指しました。収穫したすだち果実を無予措でスチロール容器に入れて貯蔵実証を、JA、生産者と協力して行いました。

(2) 晩生すだちの導入支援

晩生すだち「勝浦1号」が持つ晩生品種の特性を活かして、2月から3月の出荷用品種として産地への導入を推進しました。



貯蔵実証の果実調査

3 なしジョイント栽培技術の導入支援

なしのジョイント栽培について、導入農家に対して早期成園化支援、導入計画農家に対して専用苗木の養成の技術支援を行い、農家、関係機関が集め現地研修会を開催しました。



関係機関と勝浦1号検討

普及活動の成果

1 かんきつ栽培の省力化体系による軽労働化の推進

- ・段ボールマルチの抑草効果と乾燥抑制効果が認められました。
- ・簡易かん水システムは、負担が大きい夏場に省力的にかん水が行うことが可能となります。

2 すだちの簡易な中期貯蔵技術の検討

- ・スチロール容器貯蔵は、大袋貯蔵に比べて作業が簡易となり、作業時間の短縮となります。
- ・貯蔵1か月では、高い緑色維持効果が見られました。貯蔵2か月では、エチレン吸着剤（CSパック）を入れることで高い緑色維持効果が見られましたが、冷蔵ヤケ等課題も見られました。



新スチロール CSパックなし CSパックあり
貯蔵2か月後の調査時のすだち果実

3 晩生すだちの導入支援

- ・晩生すだち「勝浦1号」について、主要JAに産地導入推進方針を説明し、理解を得ました。
- ・冷蔵すだちの産地を対象に推進し、苗木注文がとりまとめられました。令和6年3月に1,500本の苗木が導入される予定です。

4 なしジョイント栽培の導入支援

- ・6戸の農家でジョイント栽培が導入され、うち1戸は収穫が可能となっています。
- ・普及には、ジョイント用苗木の供給が課題となります。



なしジョイント栽培現地研修会

用語
説明

勝浦1号：徳島県立農林水産総合技術支援センターが育成した晩生すだちです。従来のすだちと比べて、果皮の緑色が濃くて退色が遅く、貯蔵性が良い品種です。
ジョイント栽培：主幹を接ぎ木して樹を一行につなげる技術で、従来と比べて早く成園化できます。また、整枝せん定等の作業が簡単になり、作業時間が短縮ができます。

今後の発展方向

スチロール容器を用いたすだち貯蔵技術は、さらに検証を行い、技術確立を行います。
晩生すだち「勝浦1号」の現地導入に向けて栽培技術の確立と情報発信を行うとともに、導入後に栽培が持続的となるよう省力化体系をすすめていきます。
なしジョイント栽培の早期成園化の支援を行います。

関係者からの声

- ・簡易貯蔵技術は他の生産者にも呼びかけ量を増やして取り組みたい。（すだち生産者）
- ・晩生すだち「勝浦1号」の品種特性には生産者も期待している。（JA担当者）
- ・ジョイント栽培は作業が簡易となるので、アルバイトにも頼めるようになる。（なし生産者）

高度技術支援課

徳島県名西郡石井町石井字石井1660

tel：088-674-1922